

令和2年度

事業計画書

社会福祉法人 福陽会

介護職員初任者研修事業

目 次

- 1 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 活動方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～2
 - (1) 開講日程と募集人員
 - (2) 設備・器具の活用
 - (3) 講師の選択と充実
 - (4) 広報活動とコストダウン

1、基本方針

少子高齢化の進む中で、高齢者を抱える家族が将来安定して暮らせる環境を創造するために、当法人の施設・人材・技術等を提供し、介護職員初任者研修事業を通じて必要な知識及び具体的技術の習得を目的として、地域福祉に貢献する。

2、活動方針

(1) 開講日程と募集人員

令和2年度介護職員初任者研修講座は、下記の通り年4回の実施とする。

毎週火曜日と土曜日の通学形式とし、広告媒体の活用・生徒募集のパンフレット配布・紹介等による宣伝を強化し、募集活動の充実を図る。

区分	実施期間	募集定員
第1回	令和2年4月14日～令和2年6月30日	40名
第2回	令和2年7月7日～令和2年9月22日	40名
第3回	令和2年10月6日～令和2年12月22日	40名
第4回	令和3年1月12日～令和3年3月30日	40名
合計		160名

(受講対象者) 東京都内及び東京都近郊在住、在勤で通学可能な者

(2) 設備・器具の活用

実技・演習用器具を点検、修理を行い再利用可能なものは有効活用する

(3) 講師の選択と充実を図る

(イ) 講師に相応しい人材の登用

施設内 有資格者（介護福祉士・社会福祉士）

(ロ) 外部講師依頼の選別

医師 1 名、理学療法士又は作業療法士 1 名

社会福祉士 1 名

(4) 広報活動とコストダウン

(イ) ホームページを活用する

(ロ) 広告媒体の研究、方法の選択を推し進める

(ハ) コスト意識をしっかりと持ち、無駄を省く

令和2年度

事業計画書

社会福祉法人 福陽会

介護福祉士実務者研修事業

目 次

- 1 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 活動方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～3
 - (1) 開講日程と募集人員
 - (2) 学習方法と評価方法
 - (3) 講師の選択と充実
 - (4) 広報活動とコストダウン

1、基本方針

多様化する高齢者等のニーズに対応した専門的な知識、技術を有する介護福祉士の養成を図ることを目的とする。また、その目的を達成するため、本学院における教育活動等の進捗状況について、自ら評価及び自己点検を行うものとする。

2、活動方針

(1) 開講日程と募集人員

令和2年度介護福祉士実務者研修講座は、通信教育課程に基づいて下記の通り年4回の実施とする。

区分	実施期間	募集定員
	6ヶ月コース	
Bコース	令和2年4月～令和2年9月	40名
Cコース	令和2年7月～令和2年12月	40名
	5ヶ月コース	
Dコース	令和2年8月～令和2年12月	40名
	6ヶ月コース	
Aコース	令和3年1月～令和3年6月	40名
	合計	160名

(2) 学習方法と評価方法

【学習方法】

添削課題を提出期限までに提出することとする。ただし、合格点に達しない場合は、添削指導、再試験、再評価を行うこととする。合格認定基準は、理解度の高い順に A、B、C、D の 4 区分で評価した上で、C 以上を合格と認定する。認定基準（100 点を満点とする）

A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、
D=70 点未満

【評価方法】

①添削科目については、科目ごとにレポート（課題）を提出し、課題の理解度及び記述の的確性・論理性に応じて、担当講師が添削指導、評価を行う。

②介護過程Ⅲについては、講義及び演習にて小テストやチェックシート等を用いて、総合的評価を行う。

③医療的ケアについては、下記の通りとする。

- ・基本研修（講義）：①と同様にレポート（課題）を提出し、担当講師が添削指導、評価を行う。
- ・基本研修（演習）：省令で定める実施回数以上の演習を実施後、技能習得判定を行う。演習評価基準で示す手順通りに実施できれば修了を認めることとする。

(3) 講師の選択と充実

○講師に相応しい人材の登用

介護過程Ⅲ（スクーリング）：

介護福祉士資格取得後、介護職として5年以上の実務経験があり、実務者研修教員講習会等の修了認定を受けた者。

医療的ケア（スクーリング）：

看護師資格取得後、看護職として5年以上の実務経験があり、医療的ケア教員講習会等の修了認定を受けた者。

(4) 広報活動とコストダウン

(イ) ホームページを活用する

(ロ) 広告媒体の研究、方法の選択を推し進める

(ハ) コスト意識をしっかりと持ち、無駄を省く